

一般社団法人 日本フルードパワー工業会

本部：〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5-8号 機械振興会館内
TEL. 03 (3433) 5391 FAX. 03 (3434) 3354

西日本支部：〒566-8585 大阪府摂津市西一津屋1-1 ダイキン工業(株) 淀川製作所
TEL. 06 (6349) 0241 FAX. 06 (6349) 9865 油機事業部内

第23回政策委員会開催される

平成27年12月15日(火) 12:00~14:00の間、第23回政策委員会を開催し、平成28年度の事業計画と収支予算(案)等について審議しました。初めに梶本会長の挨拶があり、その後、事務局から本年度は

- ① 創立60周年記念事業の実施
- ② IFPEX2017 成功に向けて、産学連携事業を含めた開催準備
- ③ 「会員のための工業会」として、会員の求める情報を適宜収集・発信

を柱に、委員会や部会・分科会活動を展開することとし、平成28年度の事業計画(案)について以下のように説明しました。(網目が新規事業を示す。)

1. 公益事業

1. 需要対策事業

以下の事業を実施しその成果を会員企業はもとより当会のHPやシンクタンク・金融機関等に広く提供し、産業界の高度化等に貢献する。

- ① 総需要委員会のもとで平成29年・年度及び平成32年・年度の油空圧機器の需要見通しを作成するとともに、必要に応じて29年・年度の見直し作業を行い関係者に資料配布する。
- ② フルードパワー機器の受注・生産・需要部門別出荷・輸出入等市場動向に関する調査を実施し、関係者に配布する。
- ③ 需要業界等関連団体の情報や統計資料を迅

主 要 目 次

ISSN. 1345-2371

第23回政策委員会開催される・・・・・・・・・・1	技術調査事業・・・・・・・・・・7
委員会開催・活動状況	広報・PR事業・・・・・・・・・・8
国際交流事業・・・・・・・・・・5	工業会ニュース・・・・・・・・・・9
標準化事業/ISO対策事業・・・・・・・・・・6	統計資料・・・・・・・・・・13
標準化事業/規格事業・・・・・・・・・・7	

(一社) 日本フルードパワー工業会

URL : <http://www.japan-fluid-power.or.jp/>

速・に収集し関係者に資料配布するとともに、関連団体の関係者を招いて意見交換する。

④ その他需要対策に必要な事業を実施する。

2. 国際交流事業

昨年 TPP の大筋合意がなされ、RCEP(東アジア地域包括的経済連携)、日本・EU 経済連携協定を始めとする様々な EPA(経済連携協定)締結の動きなども活発化し、各国の市場動向の把握はより重要性を増してきている。また、海外における国際テロ等のリスクが増大しており、工業会として海外出張や調査団等の派遣を行う場合、従来に増して慎重に対応することとする。

以上を踏まえ、「国際委員会」を定期的に開催する他、必要に応じて臨時開催するなど柔軟な体制で、以下の事業を実施する。また、その成果を会員企業はもとより、当会の HP への掲載やシンクタンク・金融機関等に広く提供し、産業界の高度化等に寄与する。

① 国際交流を促進するため国際会議等に参加するとともに、海外見本市への共同出展及び視察団の派遣について準備する。

イ) 2016 年 10 月に中国・上海、2017 年 3 月に米国・ラスベガスで開催予定の国際サミット会議・ISC 国際統計委員会に出席し、各国のフルードパワー産業の情報を収集し会員に提供する。

ロ) MDA-INDIA 2016 等へのカタログ展示を中心とした共同出展への参加や海外視察団派遣の可否について検討し、必要に応じて事業を実施する。

ハ) 2017 年 4 月にドイツのハノーバーに視察団を派遣するべく企画し、準備を進める。

ニ) NFPA カンファレンス等の情報を、JETRO と協力して収集し情報提供する。

② TPP の大筋合意を受け、METI とも連携して、TPP が業界に及ぼす影響等を調査検討し、会員企業への適切な情報提供を行う。

③ Fluid Power Industry in Japan 2016 年版を発刊する。

④ 海外各国の生きた現地事情を得るために、経済産業省等の海外勤務帰国者を招き講演会を随時開催する。

⑤ 新興諸国の市場動向等について情報収集や海外市場に係わる統計データ類を整備するとともに各国の関連団体との交流を推進する。

⑥ 会員企業の海外進出状況調査を行うとともに安全保障貿易管理や公正貿易ルール等につい

て、在外公館等と連携して情報や資料の収集を行い迅速に提供する。また、必要に応じ講演会を開催する。

⑦ その他海外からの問い合わせ等国際交流に必要な事業を実施する。

3. 標準化事業

以下の事業を実施し、ISO や JIS あるいは団体規格の新たな作成・改廃を行うことにより、関連産業界のグローバル調達への対応や設計の簡素・各産業界の合理化・高度化に貢献する。

1) ISO 対策事業

① ISO 規格について検討し、必要に応じ制定若しくは改廃するとともに、我が国提案の ISO 規格化への推進を図る。

(継続)

ISO/CD Pneumatic fluid power - Test method for measuring acoustic emission pressure level of exhaust silencers に対抗する日本案の提出

② ISO 国際会議へ積極的に参加をする

イ) ISO/TC131/関連の国際会議への委員派遣
(H28.6 ポーランド, H28.12 米国
TC131/SC6 : H28.10 フランクフルト,
TC131/SC4 : H28.11 ロンドン)

ロ) ISO/TC118/SC3 等の国際会議への委員派遣

③ ISO/TC131/SC7 (密封装置：各国との連絡・会議の案内・翻訳業務等)の幹事国業務を行う。

2) 規格事業

日本工業規格、団体規格について審議し、必要に応じ制定若しくは改廃する。

① 日本工業規格

(新規)

イ) JIS B 8366-1 油圧・空気圧システム及び機器—シリンダー構成要素及び識別記号—第 1 部：シリンダ内径及びピストンロッド径並びにこれらの面積比 (H28.4 から改正作業)

ロ) JIS B 8349-1 油圧—システム及び機器から発生する圧力脈動レベルの測定方法—第 1 部：ポンプの吐出し流量脈動及び内部インピーダンスの測定方法 (H28.4 から制定作業)

ハ) JIS B 0125-2 油圧・空気圧システム及び機器—図記号及び回路図—第 2 部：回路図 (H28.8 から改正作業)

ニ) JIS B 8376 空気圧用速度制御弁 (H28. 8 から改正作業)

ホ) JIS B 8387 油圧—4ポート形モジュラスタック形弁及び4ポート形方向制御弁—サイズ 02, 03, 05, 07, 08 及び 10—締付寸法 (H28. 8 から改正作業)

ヘ) JIS B 8396 油圧—シリンダー—往復動用ピストン及びロッドシールのハウジング—寸法及び許容差

ト) JIS B 8396 空気圧—圧縮性流体用機器の流量特性試験方法—第 2 部：代替試験方法 (H28. 12 から制定作業)

チ) JIS B 6953-1 空気圧—空気圧用減圧弁及びフィルタ付減圧弁—第 1 部：供給者の文書に表示する主要特性 (H28. 12 から改正作業)

リ) JIS B 9938 油圧—難燃性作動油—使用指針 (H28. 12 から改正作業)

(継続)

イ) JIS B **** 空気圧用継手—ポート及び継手端部 (H27. 4 から制定作業)

ロ) JIS B 8395 油圧・空気圧システム及び機器—シリンダー—往復用ワイパリングのハウジング—寸法及び許容差 (H27. 8 から改正作業)

ハ) JIS B 8356-1 油圧フィルタ性能評価方法—第 1 部：フィルタエレメントの性能確認手順 (H27. 12 から改正作業)

② 団体 (工業会) 規格

(新規)

イ) JFPS 1023 油圧システムの汚染管理に関する用語 (改正：旧 JOHS 113)

ロ) JFPS 1024 分離式油圧ジャッキの選定及び使用通則 (改正：旧 JOHS 124)

ハ) JFPS 1025 分離式油圧ジャッキの本体の検査通則 (改正：旧 JOHS 125)

(継続)

イ) JFPS **** エアドライヤの選定指針 (制定)

ロ) JFPS 2010 空気圧—圧力スイッチ (センサ) 用語 (改正)

ハ) JFPS 2023 空気圧機器及びシステムの汚染管理指針 (改正：旧 JPAS 006)

4. 技術調査事業

フルードパワー産業及び関連産業の高度化・合理化・省エネ化等に貢献するため、新技術情報や新製品情報の提供を行う等、以下の事業を油圧部会及び空気圧部会並びに水圧部会で実施すると

もに、必要に応じ合同部会あるいは各部会傘下の分科会若しくは WG を設け活動する。また、産学連携事業を積極的に推進・実施するため、(一社) 日本フルードパワーシステム学会 (以下学会) と連携した「産学連携懇談会」の活動を通じた人材教育や共同事業等を推進する。さらに大学の講座に事務局専門家を講師として派遣するとともに、学会の基盤を強化するための支援を行う。

1) 油圧部会及び空気圧部会

① 会員企業から専門家を募り、高等専門学校等に講師として派遣し、人材育成に寄与する。(産学連携事業)

② 高等専門学校等の先生方に産業界の実態をよく理解していただくための方策を検討する。

③ フルードパワー業界の活性化のため、学会と連携して技術講演会を開催する。

④ 若手技術者懇談会 (油圧部門、空気圧部門) の内容の充実を図り開催する。

⑤ 「フルードパワーの世界」及び「フルードパワーの世界 追補版」を統合し、動画等を挿入したデジタルブックとして発行する。(60周年記念事業)

⑥ ROHS 規制や REACH 規制等のグリーン調達に関する情報収集と提供を迅速に行う。

⑦ フルードパワー業界の知的財産の保護に関する事業を推進する。

⑧ 中央職業能力開発協会からの要請に応じて、油空圧機器部門の中央技能検定委員 (特急・1 級・2 級) の推薦、及び必要に応じて会員企業への情報提供を行う。

⑨ その他油空圧技術に関する諸問題に対応する。

2) 水圧部会

① 平成 27 年度に設置した「ADS 国際標準化推進委員会」の下、水圧技術の国際標準化に向け、水圧部会としての協力を継続する。(産学連携事業)

② 「ADS 機器技術仕様調査委員会」を設置し、ADS サプライヤーの製造・販売・取扱い機種の詳細仕様、性能を調査収集する。

③ IFPEX2014 出展及びそれ以降に収集整理した「ADS 市場マップ」を基に、需要業界や関連業界の動向情報をより一層充実させる。

④ ADS の更なる普及促進を図るため、H.P.及びブログの運用を拡充強化するとともに、ADS 需要分野の見本市への出展を検討する。

⑤ 内外の水圧技術 (知的財産権問題も含む) の動向や情報収集等を行うとともに、必要に応

じ国際会議にも参加する。

⑥ その他水圧技術に関する諸問題に対応する。

5. 広報・PR事業

電子メールやH.P.などを活用し、会員企業に適切な情報を迅速に提供するほか、フルードパワー産業及び関連産業の高度化等に貢献するため、工業会の活動状況等について会員企業はもとよりマスコミ・シンクタンク・金融機関等にも広く提供する等、以下の事業を実施する。

- ① この50周年以降10年間の工業会活動、市場・技術動向などを総括するとともに、平成27年12月に実施した「誌上座談会」の記事を取りまとめる。(60周年記念事業)
- ② 60周年記念事業として制作する「フルードパワーの世界」デジタルブック版を積極PRして、工業高校・高専・大学等における啓蒙資料、副教材等への活用を図る。
- ③ 機関誌「フルードパワー」を四半期毎に発刊し、会員企業はもとより関係機関等にも広く配布するとともにHPに掲載し、広く広報・PRに努める。特に、本年度は「会員企業の窓」等記事を充実させ、会員企業相互の情報共有の便に供す。
- ④ 「月報フルードパワー」を、会員企業はもとより関係機関等に電子配信するとともにHPに掲載し広く広報に努める。
- ⑤ 新たなHPの内容を適切に更新し、会員及び学会・関連関係者への情報開示を積極的に進める。
- ⑥ その他広報・PR活動に関する事業を推進するとともに当会が開催する講演会等について積極的な広報・PR活動を行う。

2. その他事業

6. 中小企業関連事業

グローバル化の進展に伴い中小企業を取り巻く経済環境は激変しており、中小企業業界においても事業の海外展開が大きな課題となっている。また、経営者の世代交代も進んできており、円滑な移行も喫緊の課題となってきた。このため「中小企業委員会」と傘下の「中小企業WG」「次世代経営を考える会」で事業の機動的な運営を行い、中小・中堅企業の更なる振興・発展を図る。また、関西地域の会員の利便を図るために、委員会を関西で1回程度開催する。

- ① 需要業界動向等や中小企業施策等の動向について経済産業省等と連携して迅速に情報を収集し提供すると共に、関連する部会と合同で

講演会を開催する。また、必要に応じて、視察等を行う。

- ② 中小企業委員会の下に設置したWGで、中小企業特有の共通した課題を抽出し、解決策検討等、中小企業委員会の円滑な運営を図るための企画調整を行うとともに、必要に応じて研修・視察を行う。
- ③ 「次世代経営を考える会」で、異業種の工業会の所謂「若手の会」との連携等も視野に研修・視察を行う。
- ④ 中小企業を支える福利厚生事業の「共済制度」の参加企業拡充を図る。
- ⑤ 消費税転嫁対策特別措置法に基づく適切な対策を引き続き実施する。
- ⑥ その他中小企業の振興に必要な事業を実施する。

7. 振興対策等その他事業

激変する経済環境に的確に対応するため、需要業界の動向やPLや標準化問題等について意見交換を行う。また、年始会・総会・支部総会等を通じ、学会等業界関係者との交流を深め、業界の振興・発展を図る。

1) 振興対策事業

- ① 平成29年に開催を予定しているIFPEX2017について、「IFPEX実行委員会」を開催し、産学連携事業を含めた見本市の開催についての事前準備に当たる。
- ② 第28回JIMTOF2016(平成28年11月17日(木)～11月22日(火)の6日間)の開催に併せて当会から会員企業12社が参加予定のため、展示会場内に当会ブースを開設し、会員に対し便宜供与を行う。
- ③ 産機・建機合同部会及びシリンダ部会、空気圧本部会を開催し、業界動向等について意見交換を行うとともに、競争と協調の下秩序ある業界体制の確立を図る。
- ④ 地域経済の環境変化に対応するため、各地区部会や支部会を適宜開催するとともに、必要に応じて本部委員も出席して意見交換を行う。
- ⑤ その他振興対策に必要な事業を実施する。

2) PL対策事業

海外PL及び国内CGL(国内PL・作業・業務遂行・施設)のリスク:COMPREHENSIVE GENERAL LIABILITY)からなる団体総合保険制度の健全な運営を図る。

- ① 本保険制度の基盤を強化するため、ワールドインシュアランスグループ等と連携して

参加会員企業の拡大を図るためPR活動を強化する。

- ② 国内PL情報や海外PL情報及び様々な企業リスクを迅速に収集し会員企業に提供する。
 - イ) ケーススタディを中心としたPL・企業リスク対策等の講演会を開催する。
 - ロ) 三井住友海上火災保険(株)提供のPLニュースを電子配信する。
 - ハ) ワールドインシュアランスグループ提供の情報を電子配信する。
 - ニ) 東京海上日動リスクコンサルティング(株)提供の海外安全トピックスをHPに掲載する
 - ホ) その他のPL関連情報の収集と提供等PL対策に必要な事業を実施する。
- ③ 製造業者E&O(経済損失カバー)保険制度について、国内損保会社とともに、実現に向けて引き続き検討する。

3) その他事業

- ① 60周年記念事業を5月の総会に併せて実施する。
- ② 省エネ型水圧システムに関する国際標準化推進事業(株野村総合研究所からの受託事業)をADS国際標準化推進委員会にて実施する。(申請中:3年計画の2年目)
- ③ 当業界の60歳以上の社員の雇用状況を調査し、課題と対策を検討する。((独)高齢・障害・求職者雇用支援機構委託事業を申請する予定)(2年目の初年度)
- ④ 規格事業のうち公募によるJIS原案作成事業を実施する
- ⑤ 官公庁や関連団体等からの各種調査等の実施依頼と取りまとめ作業等を行う。
- ⑥ 年始会や総会後の懇談会・西日本支部総会を開催する。
- ⑦ 西日本支部活動を支援する。
- ⑧ その他本会の目的を達成するために必要な事業を実施すその他本会の目的を達成するために必要な事業を実施する。

3. 予算策定時の会員状況

平成28年4月1日現在の会員数は、正会員62社、賛助会員57社である。
なお、これをベースに平成28年度の収入予定額を算出すると1.2億円弱となる。

4. 平成28年度予算(案)

次に説明した事業を実施するため、事務局から以下の平成28年度収支予算(案)を説明し

ました。

「平成28年度の収支予算(案)については、収入は前年度予算比7.5百万円減の120百万円弱となるが、減少の大きな要因は補助金等の収入見込みが未確定のためである。一方、支出については、前年度予算比3.6百万円減の119.5百万円まで圧縮し、約9万円強の黒字化を図りました。また、投資活動収支面では退職給与引当金を2.3百万円強計上する必要があるが、60周年記念事業引当金を5百万円取り崩すため2.7百万円弱の黒字となります。さらに前期繰越収支差額が37百万円あり次期繰越収支差額は40百万円弱になる旨の予算(案)を説明しました。議長は本事業計画及び収支予算(案)について審議を要請し、次回理事会へ上程することが承認されました。

また、平成27年度予算の見直しについては、当初予算では未確定であった「水圧国際標準化受託収入」が確定したために見直した旨説明し承されました。以上で審議が終了し14:00に会議は終了しました。

委員会開催・活動状況報告

(詳細については各担当者にご照会下さい)

~~~~~

### 国際交流事業

~~~~~

国際委員会及びPTC-ASIA視察団報告会

日時 12月2日(水)15:00~16:50

場所 機械振興会館B3-1会議室

出席者 澤田委員長以下名。

事務局 藤原、堀江

議事

<国際委員会>

澤田委員長の挨拶に続き、平成25年度事業の進捗状況と今後の予定並びに平成28年度事業計画(案)について審議を行った。①4月9日(木)~17日(金)までのハノーバーメッセ視察団について、②「PTC-ASIA 2015」が10月27日(火)~30日(金)までの4日間、中国の上海新国際見本市会場で開催されたが、カタログ共同展示事業は中止したこと。代わりに、9年ぶりに視察団を派遣したこと。③

12月9日~11日までの3日間、インドのニューデリー近郊のインド国際見本市会場で開催される「MDA-INDIA2015」に4社が共同でカタログ展示事業に参加し、アテンドのため事務局の堀江が出張する

ことなど報告をし、その後「PTC-ASIA 2015 視察団」の報告会を実施した。



PTC-ASIA 2015 視察団報告会

MDA-INDIA 2015 開催される (カタログ共同出展)

「MDA-INDIA 2015」が12月9日(水)～11日(金)までの3日間、インド・ニューデリーのプラガティマイダン国際見本市会場で開催された。今回のカタログ共同展示会には、CKD(株)、甲南電機(株)、日本アキュムレータ(株)、(株)山本水圧工業所の4社が参加した。今回の当会ブースへの来訪者は延べ102名。

今回は開会前日(8日)に主催者によるオープニングセレモニーが開催され、珍しく重工業大臣や州知事等の挨拶があり Make in India や国の改革政策を前面に掲げていた。



「MDA-INDIA 2015」JFPA ブース

標準化事業／ISO 対策事業

流量測定分科会

日時 12月3日(木) 13:30～16:30
場所 機械振興会館1-3会議室
出席者 妹尾主査以下8名
事務局 千葉

議 事

前回議事録確認後、妹尾主査より、10月に開催されたフランクフルト会議のSC5/WG3分科会の会議報告がされた。空気圧機器のパワーロスの評価方法についてはSC5/WG3の規格に持ち込むのではなく、空気圧システムのエネルギー効率の評価としてSC9/WG2で取り上げるようになった旨報告された。

ISO 6358-1 流量特性試験方法のJIS原案作成進捗状況について報告があった。経済産業省の機械要素技術専門委員会で審議される。

次年度に制定を行う予定のISO 6358-2 流量特性試験方法の代替試験方法のJIS原案の審議に入った。
次回開催：H28-2月4日(木)機械振興会館6-61会議室

ISO/TC131/SC4(継手ホース)分科会

日時 12月10日(木) 13:30～16:00
場所 機械振興会館1-3会議室
出席者 中林主査以下8名
事務局 千葉
議 事

前回議事録確認後、投票に掛かっている定期見直しISO 19879及びFDIS 15171-2について審議し、定期見直しコメントはコメントなし、FDISについては一か所間違いを指摘して賛成で投票することにした。

続いて、ISO ミラノ会議報告として、参加者から担当したWGの審議結果について報告があった。

ISO/TS 17165-2を基にした工業規格についてはTC45の動きなどを考慮して保管期間を決めることにし、項目の選択はユーザの意見を取り入れて決めることにした。

次回開催：H28-3月24日(木)機械振興会館1-3会議室

空気圧調質機器分科会

日時 12月16日(水) 13:30～16:30
場所 機械振興会館1-5会議室
出席者 小田主査以下5名
事務局 千葉
議 事

前回議事録確認後、投票に掛かっているISO定期見直しISO10094-1、-2について検討した。続いて、ISO/TC131/SC5/WG5 フランクフルト会議で議題となったサイレンサのラウンドロビテスト結果について分析し、対抗手段を検討した。

最後に、ISO 10094-1のJIS原案について審議した。ただし、関連するISO 6953シリーズが改正されたので、それを基にしたJISの改正を先にするか議論し各社の意見を基に決めることにした。

次回開催：H28-2月19日(金)機興会館1-5会議室

*ISOの動き

発行されたISO規格
(TC118)

ISO 28927-8:2009/Amd 1:2015 Hand-held portable power tools -- Test methods for evaluation of vibration emission -- Part 8: Saws, polishing and filing machines with reciprocating action and small saws with oscillating or rotating action -- Amendment 1: Polishing machines, modified feed forces

~~~~~  
標準化事業/規格事業  
~~~~~

空気圧システム分科会

日時 12月4日(金) 14:00 ~ 17:00
場所 機械振興会館1-5会議室
出席者 張主査以下5名
事務局 千葉
議事

前回議事録確認後、10月に開催されたISOフランクフルト会議において、SC9/WG2が空気圧システムのエネルギー効率の評価を取り上げる新しい動きがあり、横浜国立大学の眞田先生がコンペナーに推挙されたことの報告があった。

改訂版リスク低減に関するガイドブック(JIS B 8370:2013 準拠)案について継続審議した。
次回開催：H28-2月5日(金)機振会館1-5会議室

油圧バルブ分科会

日時 12月8日(火) 13:30 ~ 17:00
場所 機械振興会館5S-4会議室
出席者 浦井主査以下11名
事務局 千葉
議事

前回議事録確認後、平成26年度12月応募のJIS B 8659-2 方向流量制御弁の試験方法に対する日本規格協会規格調整委員会からのコメントについて検討、審議した。

次に、投票に掛かっているISO定期見直しISO 15217:2000、ISO 9110-1:1990、ISO 9110-2:1990について審議し、コメント無し、conformで投票することとした。

続いて、平成28年度区分Aで応募予定のJIS B 8387

の和訳作業に入った。

次回開催：H28-4月21日(木)機振会館6-61会議室

制御技術分科会

日時 12月9日(水) 13:30 ~ 16:30
場所 機械振興会館1-5会議室
出席者 田中主査以下5名
事務局 千葉
議事

前回議事録確認後、JFPS 2010 空気圧-圧力スイッチ用語の見直し案について規格様式に変更したものを、最初から検討・審議した。

次回開催：H28-4月20日(水)機振会館1-5会議室

空気圧バルブ分会

日時 12月17日(木) 13:30 ~ 16:30
場所 機械振興会館1-5会議室
出席者 土澤主査以下5名
事務局 千葉
議事

前回議事録確認後、ISO/TC131/SC5/WG5 フランクフルト会議で行われた最低作動圧の試験方法のプレゼンテーションについて、メリット、デメリットを検討し日本の見解をまとめた。

続いてJIS B 8376 空気圧用速度制御弁の改正について、取組み方について討議した。

次回開催：H28-2月25日(木)機振会館1-5会議室

~~~~~  
技術調査事業  
~~~~~

ADS 国際標準化推進委員会(第4回)

開催日 12月17日(木)
場所 機械振興会館6-65会議室
出席者 山口委員長以下15名
事務局 藤原、唯根、大橋
議事

山口委員長の挨拶の後、議事に移った。

1. WG別実施内容発表と審議

大学側から、配布資料及び説明用画像を基に、水圧源をはじめとする実験設備の設置状況、各実施内容のその後の検討事項を説明し、意見交換、設備上の課題事項の詰めなどを行った。

2. 海外調査報告

11月16日から、宮川幹事、近藤社長、唯根課長代理の3名の欧州調査団が海外調査を行った。結果の概

要を、宮川幹事が画像資料を基に報告した。

英国及びドイツの2企業、1団体を訪問し、日本のADS現況のプレゼンテーションと打合せを行った結果、欧州での取り組みが2グループに分類できること、及びその方向性などが説明された。

3. その他

眞田委員から、JFPS国際シンポジウム（2017/10、於福岡）のパンフレット最新版が配布された。

藤原専務から、前回説明した「用語」に関して、ADSとして設定すべき用語、キーワードなどの具体案を事務局宛に提出するよう要望があった。

年明けに委員長と幹事が、実験設備、実験内容の確認のため、各大学を訪問する意向が示され、日程調整を行うこととなった。

なお、委員会終了後、藤原専務より資料を基に、企業側委員を主体とする新たな委員会活動の提言があり、社内での検討と回答が要請された。

次回開催：2月2日（火）機械振興会館 6-61

技術委員会空気圧部会第518回特許分科会

日時 12月18日（金）10:30～16:30

場所 特許庁・機械振興会館 6-61 会議室

出席者 赤松幹事以下6名

事務局 吉田

議事

午前中は特許庁見学を行った。特許審査や公報閲覧室の検索システムについて理解を深めることができた。また大審判定の見学も行うことができた。

午後の会議では、はじめに前回議事録及び配付資料の確認を行った。公報の検討と無効審判請求について継続中の4件について、1件は審査の経過を観察することとした。1件は検索会社による調査を開始した。1件については調査を継続することとした。1件は特許事務所より予備的見解書が提出された。新たに1件の審議を開始することとした。

次回開催：1月29日（金）機振会館 6-61

~~~~~

広報・PR事業

~~~~~

第111回編集委員会WG

日時 12月2日（水）14:00～17:00

場所 CKD(株)東京支店 会議室

出席者 水野副委員長以下10名

事務局 大橋

議事

水野副委員長の司会により議事に入った。

① 60周年記念特集号進捗状況

技術編の原稿入稿フォロー状況を確認し、全般編の寄稿依頼状況、誌上座談会の実施内容などについて事務局から報告があった。「あ・ら・かると」は執筆者が確定し依頼済みである。

技術編は入稿後油圧/空気圧/水圧の3チームにより原稿確認を行うため、新規作成の原稿確認要領書により手順が説明された。

② VOL. 30, NO. 1（新年号）、VOL. 30, NO. 3（夏号）

新年号は、一部入稿遅れが予想されるが、月末校了に向けて順調に推移している。新目次「会員企業の窓」がスタートする。

夏号も既に寄稿依頼を進めている。

春号が通常記事を掲載しない特集号のため、新年号・夏号ともに記事数が多い。

③ VOL. 30年間企画及び記事提案

夏号、秋号ともに「身近なフルードパワー」の記事が確定していないため、記事提案表の候補者への交渉を進めることとした。技術講座、ミニ知識、ずいひつ、ルポルタージュ等もほぼ確定済み。「日本留学者の声」は、秋号の候補者まで挙げられているが、その後の候補がなくなる。

④ その他

「日本留学者の声」の候補不足を受け、その企業板を意識した新目次「(仮)海外留学経験者からの提言」を提案書に基づき検討したが、事例が少ないため、「海外の窓」分類で扱うこととした。

次回開催：

・第112回WG 3月1日（火）機振会館 B3-9

第3回60周年記念事業実行委員会

日時 12月8日（火）15:00～17:00

場所 機械振興会館 1-3 会議室

出席者 齋藤委員長以下6名

事務局 藤原、鎌原、大橋

議事

齋藤委員長の司会のもと、会議次第に基づき報告・審議を行った。

全体日程に関して、事務局から12月までの進捗状況の概要を報告し、項目ごとに詳細に説明した。

別途委員会で進めている、①機関誌特集号については、進捗状況を説明後、広告の掲載協力要請を行った。②デジタルブックは、作成委員会を2回実施し、動画データの収集、本編・追補版の合本化の検討を進めている。発刊は機関誌同時の5/01目標。

12/15の政策委員会終了後に開催する誌上座談会

は、参加者が梶本 CKD 社長、臼井 KYB 会長、十
万神威産業社長、佐脇経産省課長、眞田横浜国大教
授、コーディネータは藤原専務と決まり、概要、参
加者、主要話題等も説明した。

式典（表彰式）は、表彰規程（案）を基に、経済
産業省と調整中であり、審議の結果、JFPA 会長表
彰制度なども検討に加えることとなった。

記念特別講演会は、講師が経済産業省の西垣淳子
課長と決まり、演題は「仮 IoT によるフルードパ
ワー産業の変革！一つながりが強くする製造業」。
5/19 総会後の式典内で実施し、約 1 時間の予定。

~~~~~

工業会ニュース

~~~~~

☆平成 27 年 12 月より下記の会社が賛助会員と
して入会されました。よろしくお願ひいたします。
(賛助会員)

ワブコジャパン株式会社
代表取締役 齋藤 修 殿
本社

〒141-0032

東京都品川区大崎 1-1-1

ゲートシティ大崎 ウェストタワー 2F

TEL : 03-5435-5711 FAX : 03-5435-5739

URL : <http://www.wabco-auto.com>

創 立 1988 年 9 月

資本金 213 百万円

事業内容・特色

*建機・農機用 油圧ブレーキシステムの販売
電子制御空圧ブレーキシステム、アンチ・ロ
ック・ブレーキシステムの販売等、欧米、ア
ジアで多く採用されている

~~~~~

今後の主要行事予定

~~~~~

*平成 28 年

☆1 月 14 日 (木) 年始会

(場 所) 東京プリンスホテル
「サンフラワーホール」

第 76 回理事会

同上ホテル 11F「高砂」

☆ 2 月 17 日 (水) 国際及び中小企業合同講演会

(場 所) 機振会館

☆ 3 月 7 日 (月) 技術講演会

(場 所) 機振会館

☆3 月 30 日 (水) 第 24 回政策委員会

(場 所) 当会会議室

☆4 月 15 日 (金) 第 77 回理事会

(場 所) ザ・プリンスさくらタワー
(高輪)

2F「コンファレンスフロア」

☆5 月 19 日 (木) 平成 28 年度 (第 17 回) 定時総
会及び 60 周年記念式典

(場 所) 品川プリンスホテル
メインタワー

☆5 月 19 日 (木) 総会後及び 60 周年記念懇親会

(場 所) 品川プリンスホテル
アネックスタワー 5F
プリンスホール

☆5 月 20 日 (金) 第 55 回 JFPA 懇親ゴルフ会

(場 所) 未定

~~~~~

12 月に開催された当会各委員会に出席された皆様  
は以下の通りです。(敬称略)

~~~~~

政策委員会

開催日 12 月 15 日 (水)

出席者

委員長 梶本一典 (CKD)

委 員 臼井政夫 (KYB)

田中 治 (油研工業)

十万幹雄 (神威産業)

// 北島多門 (SMC)

// 澤田敬之 (タイヨーインタナショナル)

// 古川清二 (古川税理士事務所所長)

(国際交流事業)

国際委員会及び PTC-ASIA 視察団報告会

開催日 12 月 2 日 (水)

出席者

委員長 澤田敬之 (タイヨーインタナショナル)

委 員 木村早苗 (イハラサイエンス)

// 大前 聡 (KYB)

// 原沢直季 (コガネイ)

// 新開 諭 (甲南電機)

// 湯原 真司 (CKD)

// 風間英朗 (日本アキュムレータ)

// 篠根邦夫 (堀内機械)

〃 西田昌弘 (三菱電線工業)
〃 中嶋 匡 (経済産業省)
特別参加 服部嘉博 (経済産業省)
PTC 団長 橋本健二 (KYB-YS)
副団長 村上博昭 (光陽精機)
団 員 三吉久至 (光陽精機)
〃 岩村裕之 (光陽精機)
〃 浅川義和 (アズビル TACO)
〃 稲毛徹夫 (マツイ)
〃 檜原洋平 (マツイ)
〃 上片平亮 (フジサンケイビジネスアイ)
〃 蕭 欣志
聴講者 坂口 健 (アズビル TACO)
〃 越湖修二 (マツイ)

(標準化事業/ISO 対策事業)
流量測定分科会
開催日 12月3日 (木)
出席者
主 査 妹尾 満 (SMC)
委 員 高橋浩爾 (上智大学)
〃 香川利春 (東京工業大学)
〃 眞田一志 (横浜国立大学)
〃 若原洋行 (TAIYO)
〃 長井敏和 (CKD)
〃 豊島隆博 (TAIYO)
〃 八手又秀浩 (日本ピスコ)

ISO/TC131/SC4 (継手ホース) 分科会
開催日 12月10日 (木)
出席者
主 査 中林邦明 (ブリヂストンフローテック)
委 員 後藤邦彦 (日東工器)
〃 板井淳一 (横浜ゴム)
〃 岩崎宏文 (イハラサイエンス)
〃 小島 博 (十川ゴム)
〃 西脇俊一 (ニッタ)
〃 長途登美男 (東京計器)
〃 小島研二 (日本ホース金具工業会)

空気圧調質機器分科会
開催日 12月16日 (水)
出席者
主 査 小田敏裕 (甲南電機)
委 員 三村 岳 (SMC)
〃 土岐真人 (コガネイ)
〃 高橋隆通 (甲南電機)

〃 田中尚志 (CKD)
(標準化事業/規格事業)
空気圧システム分科会
開催日 11月4日 (金)
出席者
主 査 張 護平 (SMC)
委 員 神戸孝典 (甲南電機)
〃 増尾秀三 (CKD)
〃 加藤猛美 (コガネイ)
〃 上間丈司 (クロダニューマティクス)

油圧バルブ分科会
開催日 12月8日 (火)
出席者
主 査 浦井隆宏 (ボッシュ・レックスロス)
委 員 原健二郎 (川崎重工業)
〃 高野一治 (油研工業)
〃 中村雅之 (KYB)
〃 野田隆明 (ダイキン工業)
〃 森田浩司 (廣瀬バルブ工業)
〃 安永和敏 (東京計器)
〃 加藤靖丈 (豊興工業)
〃 小倉祐二 (不二越)
〃 中野 潤 (ナブテスコ)
〃 小林 剛 (日立建機)

制御技術分科会
開催日 12月9日 (水)
出席者
主 査 田中 広 (CKD)
委 員 八手又秀浩 (日本ピスコ)
〃 金子幸夫 (コガネイ)
〃 高橋隆通 (甲南電機)
〃 楊 春明 (SMC)
〃 上間丈司 (クロダニューマティクス)
〃 渡辺敏之 (TAIYO)

空気圧バルブ分科会
開催日 12月17日 (木)
出席者
主 査 土澤聡明 (コガネイ)
委 員 河野喜之 (甲南電機)
〃 夏目清辰 (CKD)
〃 丸山哲郎 (SMC)
〃 中古 弘 (TAIYO)

(技術調査事業)

技術委員会空気圧部会

第 518 回特許分科会

開催日 12 月 18 日 (金)

出席者

幹事 赤松直人 (甲南電機)

委員 伊東淳一 (アズビル TACO)

〃 井野雅康 (SMC)

〃 出澤 大 (クロダニューマティクス)

〃 佐藤 浩 (コガネイ)

〃 甲山登紀夫 (CKD)

(編集委員会)

第 111 回編集委員会 WG

開催日 12 月 2 日 (水)

出席者

主査 前畑一英 (KYB)

副委員長 内藤秀幸 (CKD)

委員 水野純一 (CKD)

〃 中村 薫 (SMC)

〃 神戸孝典 (甲南電機)

〃 加藤猛美 (コガネイ)

〃 大久保俊克 (阪上製作所)

〃 山田良二 (ボッシュ・レックスロス)

第 3 回 60 周年行事実行委員会

開催日 12 月 8 日 (火)

出席者

委員長 齋藤圭介 (KYB)

委員 水 悟史 (川崎重工業)

〃 川崎久士 (コガネイ)

〃 寺田 稔 (ダイキン工業)

〃 阿部康雄 (東京計器)

〃 大場孝一 (油研工業)

7 日 (月) ~ 13 日 (日)

・ MDA-NDIA2015 ニューデリカカタログ共同展示会

8 日 (火)

・ ISO (委) 油圧バルブ分科会

・ 編集 (委) 60 周年実行委員会

9 日 (水)

・ 標準化 (委) 制御技術分科会

10 日 (木)

・ ISO/TC131/SC4

継手・ホース分科会

15 日 (火)

・ 第 23 回政策 (委)

16 日 (水)

・ ISO (委) 空気圧調質機器分科会

17 日 (木)

・ 技術 (委) ADS 国際標準化促進委員会

・ ISO (委) 空気圧バルブ分科会

18 日 (金)

・ 技術 (委) 空気圧部会第 518 回特許分科会

28 日 (金)

・ 仕事納め

☆経済産業省ホームページ

経済産業省の HP では①政策②申請・届出③統計④政策提言⑤情報公開のリンク等から必要な情報が得られます。

<http://www.meti.go.jp/>

☆中小企業庁ホームページ

中小企業庁 HP でも中小企業向け施策に関する多くの情報が得られます。

<http://www.chusho.meti.go.jp/>

~~~~~  
月間行事概要  
~~~~~

<12 月>

2 日 (水)

- ・ 国際 (委) 国際委員会
- ・ PTC-ASIA 視察団報告会
- ・ 編集 (委) 第 111 回 WG

3 日 (木)

- ・ 標準化 (委) 流量測定分科会

4 日 (金)

- ・ 標準化 (委) 空気圧システム分科会

